

おいしさ、そして、いのちへ。  
Eat Well, Live Well.  
AJINOMOTO®



偉人の食卓

The recipe made him  
a great man.

伊達  
政宗

刀と包丁、  
戦国一の二刀流。

奥州の虎と恐れられた政宗は、

その一方で戦国武将一の食通と言われる

顔も持ち合わせていた。

しかし、政宗は単なる食道楽ではなかった。

実は戦の際に食糧を確保するため、

若い頃から補給の問題に目を向けていたのだ。

ところがこれにはまっぴら、

戦乱の世が終わったあと

美食の道へと入っていったという。

研究熱心な政宗は台所に入って自ら料理をした。

『命期集』には、「馳走とは旬の品をぎり気なく出し、

主人自ら調理して、もてなす事である」という

名言も記されているほど。

たとえばある朝食では、赤貝焼き、

ふくさ汁、こはん、ヒ、ハリの照り焼き、

鮭のなれ寿司、このわた、栗と里芋などを

食べたとされている。

政宗は献立を考える、

毎朝豪華な二重敷のトイレに籠って

二時間も熟考していたという。

料理だけでなく、能や大鼓など、

多くの趣味を持っていた政宗。

あらゆることに興味を持ち、食欲に熱中し、

自分でやってみないと気が済まない。

そんな気性が戦国の世を生き抜く知恵と情熱と

リーダーシップを生んだのもうなずける。

食は  
人をつくる。



※料理・食器は参考資料をもとに再現したイメージです。

東京大学史料編纂所蔵模写